

第17回運営委員会の協議状況

日時 平成17年2月24日(木)18:30~21:45
場所 宝塚商工会議所(ソリオ2) 第1会議室
出席者 (委員)松本(誠)、川谷、岡田、長峯、佐々木、中川
村岡、伊藤、岡、加藤、酒井、山仲
(河川管理者)田中、西川、松本、前川
(事務局)黒田、前田

内容(協議結果)

次の協議結果を次回流域委員会に報告、提案する。

1 第14回流域委員会の議題調整

(1) 治水計画の詳細検討(確率雨量・計画対象降雨の設定(継続)、流出解析)

確率雨量・計画対象降雨群の設定については、委員から、引き伸ばし倍率や棄却等に関する具体の提案を出してもらい、協議のうえ、論点を整理する。

河川管理者は、引き伸ばし倍率が2, 0倍前後のシミュレーション結果について、説明を行う。

流出解析については、河川管理者から算出内訳等について、具体的な説明を行う。

河川管理者が所有する流出解析の詳細資料について、その妥当性を専門的にチェックするワーキングチーム(短期間の臨時的なチーム)を設置する。ワーキングチームは、チェックの結果を本委員会に報告する。

ワーキングチームのメンバーは、学識経験者等作業に不可欠と見られる流域委員会委員若干名をコアメンバーとする。また、その他の委員もチームの会議に自主参加できるものとする。

(主な意見)

- ・ 引き伸ばしでいくのか、カバー率でいくのか、まず決めるべきである。
- ・ 次の本委員会で棄却、引き伸ばしの話にいきなり入ってよいのか。先に流出解析の話が必要ではないか。
- ・ 流出解析の検討結果を見ないと、どの雨がどのぐらいの流量になるかはわからない。雨の議論は、流出解析の検討結果を見てから判断すべき。
- ・ 雨を確定してから流出解析に入るのではなく、未確定でも平行して議論していくべき。
- ・ 流出解析については、本委員会で細かい計算の部分まで議論してもあまり意味がない。算出過程やデータチェックは、専門的な委員にやってもらったほうが。

(2) ワーキンググループの報告

次回流域委員会で、各グループは、課題整理の方向(進め方等)について報告する。

(主な意見)

- ・ ワーキンググループは、本委員会での議論の前作業を行っている。項目B、項目Cの検討フローに関するデータについて、県が有するものは、グループからの要請により提出する。

- ・ これまでも、いろいろ県から資料を提出してもらっているが、委員が消化できていない部分もある。資料を方針や計画にどのように結びつけていくのかを踏まえて資料要請すべきではないか。
- ・ 「項目Cの検討フロー」については、流域環境が川へ与える影響の観点等から補強が必要である。補強案をグループから提出してもらおう。

2 その他

(1) 川づくり講演会の開催

別紙(チラシ)の内容で、講演会を開催する。

受付は、リバーミーティングと同じように対応(受付名簿、アンケート箱、閲覧コーナー等)する。

講演会終了後、別途、懇談会(講師との意見交換、質疑応答等)を開催する。

司会進行は、委員(講演会:中川委員、懇談会:委員長)が行う。

(2) 次回の運営委員会の日程

3月10日(木)流域委員会終了後に開催する。